

トラックで新座PR

志木の運送会社

3.13
22.5
「ゾウキリン」などデザイン

新座市のキャッチコピー「くらすにいざあぶらすにいざ」や市のイメージキャラクター「ゾウキリン」などが荷台にデザインされたトラック

写真がお目見えし、市民らの関心を集めている。地域活性化と社会貢献の一環で、同市のPRをしていること、志木市の運送会社「清水運輸」（清水英次社長）が自社所有のトラック（4ト車）1台にペイントし、関東一円で走行している。

トラック荷台のデザインはロゴマークのほか、同面に「通勤、通学も楽々！」「新宿ま

で電車で30分！」「都心に近い！」「埼玉県の最南端！」。反対側にはマスクキャラのほか、「新座市は自然がいっぱい！」などと描かれており、都心に近く自然も豊かな市をアピールしている。

同社は16年から、朝霞市や志木市、入間市など県西部地域の自治体のほか、茨城県内の自治体などのPRを荷台にデザインしたトラックを制

作。関東一円で走行している。18年ごろ、同社から新座市にデザイントラックの申し入れがあり、市から要望したデザインを制作した。

市内への移住や定住の促進に取り組んでいる新座市は「関東一円を走行するトラックでのPRはインパクトがあり、広範囲で不特定多数の人たちに新座市の名前や魅力を知ってもらえると思う」と効果に期待を寄せている。

（毛利伸一）

報も含め、約25分の長さに編集している。英語の解説文やテロップを併記するなど、外国人の視聴も想定した。解説と編集を担当した市江南文化財センターの山下祐樹さん（37）は「星溪園の雰囲気疑似体験してもらい、多くの方々に来園してもらいたい」と呼び掛けている。

YouTube内にある同センターのサイトで配信。星溪園で開かれた伝統工芸の熊谷染をテーマにしたシンポジウムや講演会などの動画も合わせて公開している。

（橋本浩佑）

